

(1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

項目	行動計画の目標・評価方法	達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
教科指導の充実	<p>本年度の行動計画の1</p> <p>(1) 新入生対象の学習オリエンテーションを4, 6月に実施する。 【達成状況の指標】生徒参加率80パーセントを目指す。</p> <p>(2) 8月に集中補充スクーリングを実施し、新入生対象に基礎学力を付ける取組をする。 【達成状況の指標】毎回10人以上</p> <p>本年度の行動計画の3</p> <p>(3) 転入、編入後スムーズに学習が進められるような教育課程の検討を始める。</p>	<p>(1) 4/23 レポートの進め方を中心にした学習利エンテーションの実施【参加率67%】、6/5(日)テスト受験についての教務ガイダンスの実施【参加率50%】 数値は達成できなかったが、目的は十分達成できた。</p> <p>(2) 1日目平均7人、2日目平均5人、3日目3人。人数面では目標値を下回ったが、参加した生徒には再起のきっかけとなった。</p> <p>(3) 年度ごとの開講講座、閉講講座を一覧表にまとめた。カリキュラム委員会で確認、認識した。新カリキュラムと現カリキュラムが混在する中での時間割編成、授業の持ち方の複雑さが明らかになった。</p>	<p>(1) 学習習慣が確立していない生徒が多いため早くから学習指導を行う必要があり、この学習利エンテーションは学習の仕方の習得や疑問に答える機会となり、参加した生徒の単位修得率は高いと思われ継続していきたい。さらに次年度は案内を入学式以前から配布し、保護者にも知ってもらい、全員参加するよう取り組みたい。</p> <p>(2) 集中補充スクーリングの意義を知ってもらうための情報提供を早くから行う必要がある。特に入学生に広く呼びかけるべきである。入学が決まった時点で早くから主旨を知らせるプリントを配布していく。</p> <p>(3) 時間割編成、授業の持ち方をどのように工夫すればよいかを具体的に話し合っていく必要がある。そのためにも今後予想される問題点を取り上げ、教育委員会担当者と相談しながら進めていく必要がある。</p>
進路指導の充実	<p>本年度の行動計画の1</p> <p>(1) 効果的な講演会や進路別ガイダンスを実施し、進路に対する生徒の意識を啓発する。 【達成状況の指標】参加者の満足度80%以上を目指す。</p> <p>本年度の行動計画の2</p> <p>(2) 担任と進路担当との連携の強化をはかるため、担任会の生徒情報交換において、進路の状況報告により情報共有と、同時に各担任の情報収集の場とする。 【達成状況の指標】月1～2回の実施を目指します。</p>	<p>(1) 7月に「先輩の話を聞こう」、10月にコース別に分かれた進路ガイダンスを実施 生徒満足度86%満足が得られた。 生徒・保護者の進路指導に対する要望実現のため、進路学習の時間を確保する方法として「総合的な学習の時間」への導入を検討し次年度から実施するに至った。</p> <p>(2) 担任と進路係との情報共有を回数にこだわらず、必要に応じて積極的に行った。全職員の協力により、模擬面接指導を行い、入試の現状と生徒個々の共通理解を深めた。</p>	<p>(1) コース別進路ガイダンスにより、学習の意義理解やモチベーションを高めることができた。また、「先輩の話」より看護関係への問い合わせや進路希望が増え、実現する生徒が増加。(准看護学校3名、看護専門学校3名受験)一方で、受験のための基礎学力の定着が課題となった。</p> <p>(2) 卒業予定者については、アンケートの積極的な活用や、また、県の就労支援マネージャーやハローワークとの連携を強めることにより、大幅な就職率の向上が図れた。担任との情報共有が絶えずでき、生徒との連絡調整が大変スムーズにできたことが、進路実現の大きな成果につながった。 「進路だより」の内容や受験対策講座の取組、面接指導等卒業予定者中心になり在校生への取組内容が課題となった。</p>

	<p>本年度の行動計画の3</p> <p>(3) 転入、編入生の進路希望の実態を把握・分析し、早期からの指導方法のあり方を検討する。</p>	<p>(3) 来年度の進路ガイダンスの時期と内容の検討、「総合的な学習の時間」のコース内容の変更を要請、検討委員会の開催ができた</p>	<p>(3) 早期から自己の在り方生き方や進路について考え、進路実現につなげるため、来年度より教科「総合的な学習の時間」のコースに「進路探究」を設定する。今後はこのコース運営への協力により成果につなげることが重要になる。来年度の進路ガイダンスについては、卒業予定者にも間に合う内容にし、時期を早めて8月に実施することにした。</p>
生徒指導の充実	<p>本年度の行動計画の1</p> <p>(1) スクーリング時始業前と放課後巡視で清掃を行い環境美化に勤め、毎時間巡視し、授業への出席指導を徹底する。</p> <p>(2) 生徒の美化意識を高めるための呼びかけを生徒会と協力して行う。</p>	<p>(1) スクーリング毎に当番を決め、全職員が分担して校内の落ち着いた雰囲気を持続する努力を行った。</p> <p>(2) 生徒会が呼びかけて実施した「ポイ捨てキャンペーン」を通じてごみのポイ捨てが少なくなった。</p>	<p>(1) 昨年よりも落ち着いた雰囲気が出てきて、校内巡視により、個々に対するきめ細かな指導ができるようになった。</p> <p>(2) 生徒会活動自体が停滞傾向にあり、行事に参加する生徒数は減少化しており、清掃活動に参加する生徒も減少傾向にあるが、美化環境は改善されつつあるため、引き続き呼びかけを広め参加数の増加を図りたい。</p>
組織強化の充実	<p>本年度の行動計画の2</p> <p>(1) 保護者アンケート、生徒アンケートを実施し、分析・検討結果より最重点となるものから改善していくシステムを定着する。 【達成状況の指標】アンケート回収率60%をめざす。</p> <p>本年度の行動計画の3</p> <p>(2) 転編入生の受入のあり方、クラス編成、行動・生活面の指導、進路指導等について検討を進め、通信制が担う役割、方向性を明らかにする 【取組状況の指標】改善のためのオフサイトミーティングを2回以上実施し、改善案を2つ以上提案する。</p>	<p>(1) 保護者アンケート回収率 40% 「松高通信」に結果・分析を掲載し、還元する。 年度末に生徒アンケートを実施し、来年度「松高通信」に分析・検討事項を掲載予定。</p> <p>(2) 7月、3月にオフサイトミーティングを2回実施。入学の意識付けとして転入学試験時に作文を実施。提案された改善案にしたがい転入生の前籍高校に学校訪問を実施した。</p>	<p>(1) 本校における教育上の問題点について、保護者と共有できる仕組みができ、改善点がいくつか上がってきた。年度末にどのように改善するか話し合いできるものから次年度より始めていきたい。(例：5～6月に個人面談を実施し、生徒の状況を把握する。)</p> <p>(2) 転編入生の増加にともない単位修得率を上げるため、1年次の指導を適切に行う必要がある。そのためには、入学前の生徒の状況を知る必要がある。中学校や前籍高校との連携を密にして生徒の実態に沿った指導が行える取組が重要と思える。</p>

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	<p>1. 自分のペースに合わせた学びができる体制が整っている。</p> <p>2. 小さい組織であることから、情報が伝わりやすく共通理解しやすい。</p> <p>3. 時間的な余裕を持って取り組むことができ、個人指導ができやすい環境である。</p> <p>4. 管理職が組織全体を見渡すことが出来ることから、リーダーシップが発揮しやすい。</p>

弱 み	<p>1. 様々な経歴をもつ生徒を受け入れ、日常的に登校しないシステムのため、規範意識の統一的な指導が困難な環境にある。</p> <p>2. 施設に関しては、全日制との共用であるため利用に制限があるため、日曜スクーリングのほかにスクーリングを実施することが難しい。</p> <p>3. 地域や保護者との関係が希薄で様々な取り組みがしづらい環境にある。</p> <p>4. 中学校や高校との連携体制が取りづらく、学校の内容を十分理解されていない。</p>
--------	--

(3) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題

関係者評価委員より子どもを取り巻く社会の変化や学校環境の変化により不登校経験者や全日制になじめない生徒の増加の現状があらためて指摘され、これらの生徒に対応した受入る教育機関として通信制課程の役割が明らかとなった。中学校教員対象の学校説明会等を企画しているが、専任のカウンセラや教育相談者がいない現状があり、十分な対応に至っていない。次年度に向け、出身中学校、高校と連携を深める取組を構築していきたい。

(4) 組織力向上のための取組(改善策)

次年度に向けた取組

1. 今年度は授業力向上のため一人1回他校の授業を見学する取組にほぼ全員の12名が参加し、報告書で気づいた点や取り入れたい事項を共有した。通信制の根幹を成すものは、面接授業(スクーリング)と課題報告(レポート)であるが、ここ数年の異動により、通信制経験年数の浅い教員がほとんどになり、添削の指導力が向上していない現状がある。添削の内容によっては生徒の学力を向上させたり、学習意欲を上げたりすることも可能と思われる。通信制の学びが続くかどうかはレポートの提出状況におおきく左右される。工夫されたレポートで、質の高い添削指導が単位修得率を向上させると思われる。次年度は、添削指導力向上をはかる取組を行い、単位修得率55%(現在50%)を目指したい。
2. 引きこもり・不登校経験者が増加傾向にあるため、生徒の実態、ニーズ把握のため職員のカウンセリング等の能力向上のため、教育相談研修を3回実施し、取り組んだ。学校関係者評価委員から指摘のあったように、これらの生徒の学習の場として通信制へのニーズがあることが再度明らかになり、入学者の分析、検討だけでなく、対応できる知識や能力を持つことが求められている。次年度は、より一層効果的な研修を行い、実践に対応できる能力をつける取組を計画したい。